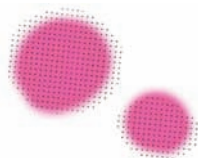


はじめに



これまでの長い間に、たくさんお母さんに出会ってきました。その多くは障がいがある子のお母さんでしたが、障がいのない子のお母さんにも出会いました。

お母さんたちの中には、障がいがある子と共に充実した人生を送っていた人、周囲で温かく見守りながら支援をしていた人、目を合わせないようにその場を去った人、そして障がいがあることで子どもや自分を責めていた人など、いろいろな人がおりました。

このような出会いから、障がいを心配しているだけでは何も解決しないことや、発達が遅れていることであせりを感じても、子育てには何の役にも立っていないことを知りました。さらに、障がいのある子のお母さんを温かく受け入れることは、互いのお母さんにとって、幸せを感じながら生きていくことにつながっていることも知りました。

多くのお母さんは、このことをよく知っていてそのように生きているわけですが、まだまだ知らないお母さんも多いようです。そこで、子どもをしっかり受け止めて子育てができるように、お母さんに変身してほしいと考えました。

今回は、お母さん中心に、気になる子どもについてまとめましたが、お母さんだけを考えているわけではありません。お母さんがいない家庭でも、必ずお母さんの役割を果たしている人がいると思いますので、その人に置きかえてみてください。

この本では、障がいのある子どもや障がいがあると思われる子どもを「気になる子ども」としましたが、その理由は障がいについて理解することが目的ではなく、子どもの行動やその子

を取り巻く周囲の人々の対応について理解を深めることが目的だからです。また子どもが小さいうちは、気になる行動がしつけなどの問題によるものか、発達上の障がいなどによるものか、はっきりしないことが多いため、障がいと呼ばないようにしました。もし、障がいについて理解を深めたい場合は、医師や心理学者、カウンセラーなどがまとめた専門的な本でお調べになると良いでしょう。

この本は、どこから読んでも、そこだけ読んでも理解できるようにまとめてあります。そして、どなたにも理解していただけるように、読んでわかるというより、見てわかるように、たくさんのイラストを載せました。イラストは、特別支援学校で長い間、熱心に指導に取り組んでおられる最上学先生に描いていただいたので、優しくわかりやすいものとなっています。イラストを見ただけでも、そこにどんな内容が書かれているのか推測できますので、お気軽にお読みください。

